

平成26年度

福島県環境影響評価審査会議事録

(平成27年1月7日)

1 日 時

平成27年1月7日（水） 午後1時30分開会 午後2時30分閉会

2 場 所

本庁舎2階 第1特別委員会室

3 議 題

相馬港天然ガス発電所(仮称)設置計画計画段階環境配慮書に対する知事意見に係る答申(案)について

4 出席者等

- | | |
|---------------|--------|
| (1) 環境影響評価審査会 | 8名 |
| (2) 事務局 | 6名 |
| (3) 傍聴者 | 報道機関1名 |

5 議事内容

事務局から、審査会委員や庁内関係各課等からの意見を踏まえて作成した知事意見に係る答申案について資料に基づき説明したところ、以下のとおり質疑応答がなされた。その中で、答申案を修正する意見が出たので、当該意見を勘案した上で会長一任により答申案を修正することになった。

【委員】

内容的には、答申案のとおりで差し支えないと思いますが、「二酸化炭素排出削減に取り組むこと」とあり、県環境影響評価技術指針の環境影響評価項目に二酸化炭素は設定されていることから、今回の答申案に入っている訳です。本審査会でも数件の火力発電所について審議しております。復興計画の推進、火力発電による地域の活性化についてはある程度応援しているつもりですが、しかし、二酸化炭素はかなり増加します。福島県の開発地域だけでなく、日本全体としても増加します。二酸化炭素の排出責任は電力消費地であって、生産地ではないということですが、しかし、余りにも多いです。

CCS (Carbon dioxide Capture and Storage) の導入について、配慮書に記載されてませんでしたか。

【事務局】

広野、勿来のIGCC (Integrated coal Gasification Combined Cycle) については、燃料が石炭であることから、知事意見においてCCSに触れておりますが、LNGについては、確かに二酸化炭素が排出になりますが、IGCCよりも更に発電効率が高いという前提があり、環境省ではCCSの研究について言及してありますが、CCSの設置までは求めておりません。このことから、今回の答申案は、IGCCよりトーンを下げた記述にしております。

【委員】

I G C Cについては、事業者の方からC C Sについて取り組むこととしていたのですか。または、知事意見において初めて指摘されたのでしょうか。

【事務局】

C C Sについては、知事意見において、初めて指摘しております。事業者の方から積極的にC C Sについての意見はありませんでした。

【委員】

1 2 0 万 k Wの火力発電所からは、それ相当の二酸化炭素が排出になります。このまま行くと、福島県では簡単に火力発電所を設置される事になりかねませんので、C C S等新たな処理方法を導入する等の何らかの歯止めのような文言を知事意見に入れるべきではないでしょうか。そうしないと、後世に責任を感じるような気がします。

【事務局】

今回L N G発電所と言うことで、若干トーンを下げておりますが、内部で議論がなかったわけではございません。環境省からの意見の中でも、C C Sに触れてございますので、表現については後ほど検討させていただきますが、二酸化炭素の削減対策については知事意見に入れさせていただきます。

【議長】

I G C CについてはC C Sを考慮しているから等の上手く表現をまとめてください。

【委員】

知事意見がどの程度の効力があるかわかりませんが、石炭とL N Gとでは二酸化炭素の排出量が大きく違いますので、寧ろL N Gを推奨するスタンスがあった方がよろしいのではないかと思います。

【委員】

L N Gについては、できればC C Sについても考慮してくださいという感じでしょうか。

【議長】

二酸化炭素の少ない方法を採用する等の表現を工夫してください。

【事務局】

了解しました。